



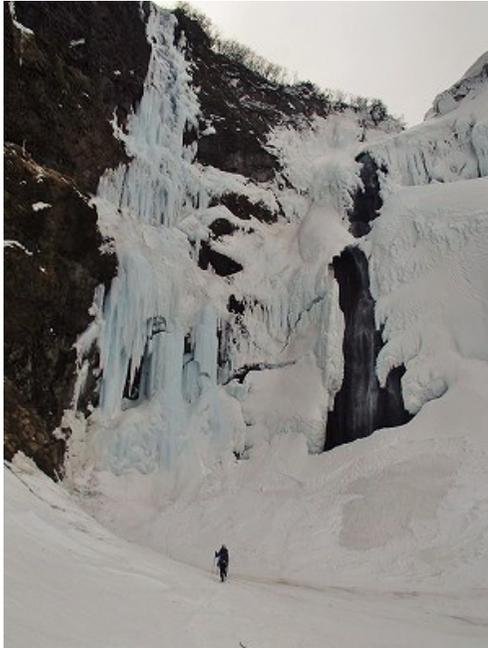
圧倒的スケールのマルチピッチアイス

## 蔵王 濁川不動滝右岸ブルーファング アイスクライミング

小暮

【日時】 2014年3月1日（土）～2日（日）

【メンバー】 L小暮、笹川



ブルーファング（左）と不動滝（右）

先週に引き続き蔵王へ向かう。今回は、宮城蔵王なのでだいぶ近い。ブルーファングは、観光名所にもなっている濁川の不動滝の右岸にできる氷瀑で長さ110m VI級というマルチピッチアイスルートだ。楽しみでもあるが大丈夫だろうかと少々心配にもなる。

アプローチは、澄川スキー場脇の駐車場から、雪で通行止めとなっている蔵王エコーラインを登っていく。今回はBCまでは道路のため傾斜も緩いので荷物軽減のため、子供用のそりに登攀具、ロープ、テント等を積んで引いてみたが、登りではかなり楽だった。賽の碓の寺のからは登山道を行く方がよいのだが、登山道は雪の下で分からないのでそのまま道路沿いに進み、カーブのところで登山道方向へと進むとワイヤー

ケーブルの鉄塔がある登山道の沢への下降点へ出るので、ここにベースキャンプを張る。1時間程度の歩き。スキー場のリフトを使う場合は30分程度で来られるようだ。

初日は偵察メインなので、テントを張って、ブルーファングを確認しに行く。BCから沢へ降りるには沢沿い右岸を300mくらいトラバースしていくと岩場があり、そこからガレレンゼを下降するらしい。古いトレースがうっすらとあるので、辿っていく。ガレを下ると広々とした沢に降り立つ。暖気が入ったのか、ぼかぼか陽気で春を感じさせる天気。あまりの暖かさに氷が溶けてないか心配になってしまう。しばらく沢を登っていくと、ブルーファングの氷瀑が遠目に見えた。上流部は黒々としていて氷の裏側の岩が透けて見えるような感じで、こりゃ駄目かなと思ったが、とりあえず近くまで行って確認するしかない。途中、滝が出ているので左から雪の斜面を巻き、二つ目の滝は雪で埋まっているが傾斜が強いので左岸をトレース跡に沿って登っていくと、ベースキャンプから約1時間で取付きに着く。

ブルーファンクはまるで高層ビルのように見上げる大きさと、圧倒される。おまけ



ブルーファンク1ピッチ目



氷柱部分を登る

に下段の氷柱は、横に亀裂が入っているが、遠目に見た感じよりは氷もしっかりとしていて、なんとか登れそう。中段にはV字スレッドの残置スリングも見えているので、1ピッチ目を試登してトップロープを張る。登るラインは左側はツララ状で登れそうになく、右側の氷柱からは水が滴っているので中央の氷柱を登る。40mロープを伸ばすと、残置V字スレッドのあるテラスに着いた。氷は刺さりやすく、以外と登りやすかった。V+。60mハーフロープ2本を連結してトップロープを作り、それぞれ2回ずつ登って楽しんだ。素晴らしいスケールと雰囲気で大満足してBCに戻り、明日の登攀に備えた。

二日目は、上まで抜ける予定なので早起きするが、あいにくの雪模様。夜半からずっと雪がちらついていたので、出発するか悩むが天気予報では、9時まで降水量0mmの雪で、その後は曇りとなっているので、そのうち止むだろうと予定通り出発した。昨日とは打って変わって冬の景色に逆戻り。小雪の舞う中、登攀準備をして空荷で登り始める。1ピッチ目は、小暮リードで昨日登ったのと同様、同じラインをたどるが、残置支点の上はそのラインだと2ピッチ目がハ

ングとなり難しくなるので、5m程右の氷柱の基部に向けて登る。スクリューは12本なので本数がぎりぎり、アンカーはスクリュー1本とツララに回したスリングでビレイする。トップが1ピッチ目を登り終わったところで、後続パーティがやってきた。ぶなの会のSさんと富山の方のお二人であった。

2ピッチ目も小暮リード。垂直の氷柱を5m登り、傾斜の強い階段状に続く。後続で登

っているので落氷しないように心掛けるが、やっぱり小さな氷を少し落としてしまう。段々が多少あるので休めるが、なかなかしんどい。(V+~VI-。40m)ここもスクリューは本数ぎりぎりだ。2ピッチ目のラスト5mは、氷結が少々悪いて嫌らしい。

最後の3ピッチ目は、笹川リード。15m。IV級。段々の氷から落ち口右側の灌木目掛けて抜ける。落ち口では右から左へとトラバースして滝の上へ出た。

下から見上げた時は、いかにも巨大な滝で圧倒されたが、無事に完登できて充実感でいっぱいだ。下降は、灌木から60mロープをダブルで懸垂する。昨日の残置支点の所でピッチを切つて、2回の懸垂で基部まで戻ることができた。滝上からはすぐに道路に出られるようなので、

(ぶなの会のSさんは滝上のあたりにBCを張ったとのこと)歩いて下山も出来なくはないのだが、荷物を持ってバーチカルの滝を登るのはしんどいので空荷で登る形でよかった。再び沢を下降し、崖を登り返して、ベースキャンプまで戻って、テント撤収して帰る。登りでは有効だった荷物用のそりも、下りでは厄介な運搬へと変貌。そりの方が自分を追い越したり、後ろからそりに轢かれたりと、担ぐ労力の代わりにそりを操作する労力が難儀で、楽なのか楽じゃないのかよくわからなかった。



まるで高層ビルのような。圧倒的なスケール。

#### 【行程】

- 3/1 澄川スキー場(8:40)~駒草平BC(10:10/10:45)~ブルーファング(11:50/15:40)  
~BC(17:00)
- 3/2 BC(5:45)~ブルーファング(6:50/13:15)~BC(14:25/50)~スキー場(15:55)

#### 【地図】 蔵王山